

パチンコ店における 依存(のめり込み)問題 対応ガイドライン

対応運用マニュアルで具体的に

未然に防ぐための取り組み

パチンコ・パチスロ産業界は、依存(のめり込み)問題に対してさまざまな取り組みを続けてきたが、社会的要請はさらに強まりつつある。日遊協は、依存(のめり込み)対策を強化することがパチンコ・パチスロをより健全な娯楽として成長させることを強く意識し、昨年6月に依存問題プロジェクトチームを発足させた。依存問題PTは遊技産業活性化委員会(全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商)のワーキンググループも兼ねて依存問題ガイドラインの制定に取り組んだ。日遊協原案をもとに全日遊連の修正、他団体の追加案も加え、遊技産業活性化委員会は2月18日、「パチンコ店における依存(のめり込み)問題対応ガイドライン」と「対応運用マニュアル」を正式に決定した。

このガイドラインを実効あるものにするために、日遊協は各支部でホール店長らを対象にした講習会開催を計画し、4月17日には東京・東上野、オーラムで約250人の講習会を開く。依存(のめり込み)対策は今後、21世紀会全体での活動に発展させることになる。

長文ではあるが、今後のパチンコ・パチスロ産業界にとって「重要な指針」となるため、全文を掲載する。

1 はじめに

社会的責任としての取り組み

遊技産業はパチンコ・パチスロの依存(のめり込み)問題対策について、かねてより、ばちんこ依存問題相談機関「認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)に対する支援、啓発告知ポスター、ステッカー等の店内

掲示等に取り組んできたが、依存(のめり込み)問題に対する社会的指摘が一層の高まりをみせるなかで、改めてその取り組み強化が求められている。

一部顧客の依存(のめり込み)問題が社会的に問題視されることは、大衆娯楽を提供する立場として憂慮すべき状態であり、顧客自身の自

己責任として等閑視することなく、問題解消に積極的な取り組みを重ねていくことが、遊技産業の社会的責任である。また、国民の余暇充実に貢献していくため、パチンコ・パチスロを遊技するファンを守り「適度に楽しむ遊び」として、健全かつ安全・安心な遊技環境を提供していくことが、社会的な信頼を獲得し、

遊技産業の将来につながるっていくものと認識している。

こうした基本姿勢の下に、依存（のめり込み）問題に対する啓蒙・啓発などパチンコ店の対応、お客様との向き合い方などについて基本的な取り組み指針を策定した。

本ガイドラインをパチンコ店における依存（のめり込み）問題対応のための自主的な取り組み指針として積極的に活用されたい。

また、各店舗における具体的な取り組み等については、運用マニュアルを参照されたい。

なお、本ガイドラインは依存問題（のめり込み）関連の知見を集約しながら随時、改訂していく。

2 依存（のめり込み）問題とは

いわゆる依存症について、WHO（世界保健機関）のICD-10では「病的賭博」、DSM-5（アメリカ精神医学会の精神疾患の診断基準）では「ギャンブル障害」（邦訳：ギャンブル障害）とされている。精神疾患分類で「依存症」の表記はない。パチンコ・パチスロにおける依存（のめり込み）とは、DSM-5の診断基準を援用すると、臨床的に重大な健康上の障害や苦痛を引き起

こす「問題あるパチンコ・パチスロ行為」が12ヵ月間、持続したり反復したりすることである。

また、依存（のめり込み）の弊害として、個人の経済的（借金問題等）、職業的（仕事への悪影響）、人間関係（家族関係）などへの問題波及にとどまらず、社会生活そのものに悪影響（社会的破綻）をきたす場合があることが指摘されている。

本ガイドラインでは、パチンコ・パチスロ遊技の結果、起こり得る依存（のめり込み）と、その外延の依存（のめり込み）のおそれのある人（いわば予備軍）の様々な問題等を含めて「依存（のめり込み）問題」または「依存問題」と総称する。

※DSM-5の診断基準は、「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応運用マニュアル」（以下、運用マニュアルという。）の中の「6 自己診断チェック表」（9頁参照）。

3 目的および取り組み方針

パチンコ・パチスロ依存（のめり込み）の未然防止

本ガイドラインは、パチンコ・パチスロ遊技により依存（のめり込み）に陥ることを未然に防ぐことを目的とする。

一般的に予防医学では、以下の一次予防・二次予防に分けて考えて

いる。

①一次予防：社会一般に対する依存リスクの注意喚起、啓発活動

②二次予防：パチンコ店での遊技客に対する啓発活動、早期発見・早期対応および専門機関への橋渡し
③三次予防：治療の過程におけるリハビリや保健指導等の専門領域

このうち本ガイドラインでは、主に上記①②の社会と顧客に対する啓蒙・啓発等を促すパチンコ店での基本的な取り組みをまとめた。③の三次予防については、専門領域であり、専門機関への支援等を業界として考慮していくが、本ガイドラインの対象外とする。

ここでの全体の活動は、すべての遊技者に業界として「健全な遊び方」を薦めることを大前提に、依存（のめり込み）問題や依存リスクを抱える人に早期発見と問題に対するいわば「気づき」を促す活動ともいえる。

遊技産業は、身近で手軽な大衆娯楽として、つねに安全・安心な遊技環境を提供し続けたいと考えている。そこでは、遊びを提供する側として、依存（のめり込み）問題を抱える顧客に真摯に向き合い、業界挙げて啓蒙・啓発活動に取り組み、少し

でも依存リスクを減らしながら社会や顧客の理解を得ていきたいと考えている。また、パチンコ・パチスロ依存（のめり込み）に対する社会からの厳しい指摘を受けとめながらも、一方で、適切にコントロールして遊技するファンを守り、一般ファンの不要な心の痛みを除去すべく、依存（のめり込み）の正しい実態等を広報していくことも業界の責務である。

4 経営者および担当者役割

(1) 推進体制の構築

本ガイドラインにそった対策の円滑な推進に向け、店舗経営企業の経営者は、依存（のめり込み）問題対応が企業の社会的責任であることを見出し、社内に依存（のめり込み）問題対応に関する専任の担当者（以下、担当者という。）を置き、各店舗での実効ある推進体制の構築に努めるものとする。

(2) 従業員教育の実施

担当者は、本ガイドラインにそった依存（のめり込み）問題対応等について従業員への教育を定期的の実施し、取り組みの周知徹底を図るとともに、依存問題関連に係る顧客の声の全体的把握等に努めるもの

とする。

(3) 店舗従業員に対する啓発

担当者は、遊技客だけでなく従業員の他にも依存（のめり込み）問題を抱える人がいる場合があることを認識し、運用マニュアルの自己診断チェック表（10頁）の活用を促すなどして、不断に啓発・注意喚起等に努めるものとする。

5 社会に向けた

取り組み （一次予防）

依存（のめり込み）問題に対する社会に向けた啓発活動等の取り組みは、地域社会と共にあるパチンコ店が社会的存在として依存（のめり込み）問題に対する社会の不安軽減を図り、安全・安心な遊技環境を提供していくために不可欠である。この取り組みは、社会からの信頼醸成につながるものと認識している。

社会に対する取り組みにあたり、各種広告媒体等で共通標語を積極的に活用し、訴求力アップを図るものとする。

なお、下記に例示する各種媒体が各地域の広告宣伝自主規制で許可されていない場合は、対象外とする。

(1) 共通標語の活用

依存（のめり込み）問題の発生を

未然に防ぎ、パチンコ・パチスロを「適度に楽しむ遊び」として社会にアピールしていくため、広告宣伝等にあたり様々な媒体で以下の共通標語の活用を努めるものとする。

共通標語は、全日本遊技事業協同組合連合会（以下、全日遊連という。）の理事会決議にそって、**「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。のめり込みに注意しましょう。」**

とし、新聞の折込広告（チラシ）等で全国のパチンコ店が統一して用いることとする。

(2) 各種媒体等の活用

① 新聞の折込広告等

パチンコ店の新聞折込広告（チラシ）においては、全日遊連で決議した共通標語のデザイン・フォーマットに従って挿入するものとする。インターネットによる広告も同様とする。

※共通標語のデザイン・フォーマットは、運用マニュアル（11頁）参照。

② テレビCM等

パチンコ店経営企業およびパチンコ店のテレビCMでは、CM映像の末尾等に、共通標語の挿入に努めるものとする。ただし、ラジオCMにおいて、CMの放送秒数が限定さ

れている場合にあっては、この限りでない。

③ 屋外広告等

屋外広告、デジタル・サイネージ（電子看板、電子掲示板）および交通広告（電車、バス等の公共交通機関の広告）において、共通標語の挿入に努めるものとする。挿入にあたっては、通行人等が視認しやすい掲載サイズに配慮すること。

また、すでに設置の屋外広告、屋外看板等（簡易な案内地図等は除く）については、可能な限り早期に表示を切り替え、共通標語の挿入に努めるものとする。

④ ポケットティッシュ等

街頭配布ポケットティッシュ、ポスティング、新聞本紙広告など不特定多数を対象にした広告宣伝物において、共通標語の挿入に努めるものとする。掲載スペースの都合上、共通標語の全文を挿入しにくい場合にあつては、可能な限り掲載に配慮するものとする。

⑤ 企業ホームページ等

パチンコ店経営企業およびパチンコ店のホームページ（モバイルサイト含む）において、共通標語の掲載に努めるものとする。掲載箇所は、ホームページのトップページを推

奨する。

また、ばちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」（RSN）のバナー・リンクに努めるものとする。

6 来店客に向けた

取り組み （二次予防）

来店客に向けた対応は、パチンコ店での遊技客に対する啓発活動、依存（のめり込み）問題の早期発見・早期対応および専門機関への橋渡しが主な取り組みとなる。

遊技客がパチンコ・パチスロを「適度に楽しむ遊び」として捉え、安全・安心な遊技を確保していくために、依存（のめり込み）問題を遊技客の自己責任に帰すことなく、遊技客と真摯に向き合っていくことを主眼とする。

こうした観点から以下の取り組みの推進に努めるものとする。

※啓発告知ポスター、ステッカーのデザイン等は、運用マニュアル（8頁）参照。

(1) 各種啓発ツールの活用

① RSN相談窓口告知ポスター（A4サイズ）の店内掲示

リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）の相談窓口告知ポスターは、全日遊連がかねてから全国

パチンコ店での掲示を推進しており、RSNの連絡先を記している。

依存(のめり込み)問題を抱える遊技客がRSNに電話相談する大きな契機となっており、店内の見やすい場所に掲示すること。また、これまでの事例から、特に店内トイレ等に掲示するのが効果的である。

②啓発ステッカーの店内掲示

前項①と同様にRSNの連絡先を記したミニサイズの依存対策啓発ステッカーを店内の見やすい場所に掲示すること。特にトイレ個室等に掲示するのが効果的である。

③店内用ポケットティッシュ、DM等への共通標語の挿入

来店客用のポケットティッシュ、チラシおよび店舗会員向けDM(ダイレクトメール)において、共通標語を挿入すること。

(2)店内アナウンス等の実施

店内で共通標語「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。のめり込みに注意しましょう。」等の定期的なアナウンスをすること。また、店内にデジタル・サイネージを設置の店舗は、共通標語を電子表示すること。

※補足…共通標語を標準装備した店内アナウンスの自動音声登録システムを開発後、同システムに移行できる。

(3)自己申告プログラムの活用

(※予定)

店舗で顧客会員の過度なめり込みを抑制する「自己申告プログラム」の活用を努めるものとする。同プログラム導入店は、プログラムの内容等を来店客に広報すること。

自己申告プログラムは、店舗の顧客会員システムを活用して、会員が1日の遊技の使用(投入)上限金額を自ら申告し、設定値に達した場合、翌来店日に店舗従業員が当該会員に知らせる仕組み。これによって、自ら適度に楽しみたい、のめり込みを抑制したいと考える顧客の要望に応え、安全・安心遊技をシステム的に担保する。

※自己申告プログラムは、近く開発し店舗に導入できる見込み。

(4)安全・安心な遊技環境の提供

前記4-1(1)の推進体制の構築の下に、以下の項目に取り組み、安全・安心な遊技環境の提供に配慮すること。

- ①初心者等に対する適度な遊び方の案内
- ②遊技客に対する遊技機等の説明責任の履行

③依存(のめり込み)問題を抱えていると思われる顧客からの相談に

対して、自己診断チェック表やぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」等の紹介

④ホール関係5団体による「子ども

の車内放置防止対策マニュアル」にそった取り組みの再徹底

7 関係団体の取り組み

※取り組みの具体的対応例は、運用マニュアルの「5 来店客への対応」を参照。

日本遊技機工業組合

- (1)手軽に安価で、短時間で遊べる遊技機の開発及び提供

- (2)日工組が支援している公益財団法人日工組社会安全財団を通じて、平成25年度より「ぱちんこ依存問題研究」を継続。

- (3)専門家との依存症に係る勉強会の実施。

(4)遊技性の検討

いわゆる依存症となりやすい若しくは重症化する場合、当該遊技仕様等において何らかの対策を講じていく。

- (5)一般の遊技者に向けた広告媒体

に「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。」の文言を掲載。

(6)広報による啓蒙活動

日本電動式遊技機工業協同組合

- (1)遊技機(液晶等)への共通標語「パチスロは適度に楽しむ遊びです。のめり込みに注意しましょう。」の表示(平成27年12月以降の新規設置の遊技機で実施)。

遊技機待機時(遊技客が遊技せず一定時間が経過した時)に共通標語を表示する。液晶非搭載機では、上下パネル等の遊技客から見えるところに共通標語を表示する。

- (2)小冊子、台間に置く遊技説明シート(ポスター等)などに共通標語を挿入する。

- (3)新聞、ファン雑誌への広告掲載。

全国遊技機商業協同組合連合会

- (1)リカバリーサポート・ネットワークを紹介するポケットティッシュを作成し、パチンコ店に配布。
- (2)リカバリーサポート・ネットワークの業務をサポートすべく、日工組と連携して依存問題相談窓口を全商協に開設し、相談者からの電話を直接受ける。その上で依存問題に関する内容の連絡とそうでないものを振り分け、依存問題に関する相談についてはリカバリーサポート・

ネットワーク事務局へ転送する。

相談窓口を開設するにあたり、リカバリーサポート・ネットワークと合同研修を行い、電話対応要員の教育を実施する。

(3)パチンコ店駐車場での車内放置防止巡回活動の実施。

回胴式遊技機商業協同組合

パチンコ店における 依存(のめり込み)問題 対応運用マニュアル

1 はじめに

本マニュアルは、「パチンコ店における依存(のめり込み)問題対応ガイドライン」(以下、ガイドラインという。)に定めた基本的な取り組み、顧客対応等の指針にそって、パチンコ店従業員が店舗現場で適正な措置を講じるため、運用上の具体的な取り組みツールおよび留意事項等をまとめた。

2 共通標語

ガイドラインの5-1(1)に定める共通標語「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。のめり込みに

(1)パチンコ店駐車場での「幼児車内放置ゼロ」巡回活動の実施。

(2)リカバリーサポート・ネットワークの啓発動画を作成し、ホームページに掲載するとともに、業界団体にも動画を提供。

(3)新聞、ファン雑誌等への広告掲載。

注意しましょう。」の新聞折込広告(チラシ)への挿入は、全日遊連の決定にそったデザインを採用し、統一して用いるものとする。共通標語デザインは、図1(11頁)参照。

3 RSN告知ポスター

ガイドラインの6-1(1)①に定めるパチンコ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)告知ポスター(A4サイズ、右下図)は、全日遊連、日遊協、RSN等のホームページからダウンロードできる。

また、同ポスターは、全日遊連の

RSN 告知ポスター

パチンコパチスロ依存は、
誰にでも起こりうる問題です。
ひとりで悩まず、
お電話ください。

もし、ひとつでも当てはまるなら、
あなたの遊技は、もう“過度”を
超えてしまっているかもしれません。

- パチンコをするためにウソをついた
- 使ったはいけないお金を、使ってしまった
- 負けを取り返そうとして、途中で止められなくなった
- やり始めると、時間や金額が分からなくなってしまう
- パチンコをするために、お金を借りた
- パチンコが原因で、大切な人とケンカになった

相談窓口
050-3541-6420
月～金(土日祝祭日除く)午前10:00～午後4:00

ホームページ
<http://rsn-sakura.jp/>

ぱちんこ依存問題相談機関
認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク

リカバリーサポート・ネットワークは、ぱちんこ依存問題からの回復を支援する非営利相談機関です。電話による無料相談を行っています。相談は匿名でお受けしています。当団体の活動は、パチンコ・パチスロ産業21世紀会の支援、会費、寄付によって支えられています。

※パチンコ・パチスロ産業21世紀会(加盟14団体)
全日本遊技事業協同組合連合会、一般社団法人日本遊技関連事業協会、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、
全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合、一般社団法人遊技場自動サービス機工業会、
遊技場自動補給給油工業組合、遊技場メダル自動補給給油工業会、一般社団法人日本遊技産業経営者同友会、
一般社団法人全国遊技機整備協議会、一般社団法人パチンコ・チェーンストア協会、一般社団法人電子認証システム協議会、
一般社団法人アプリベディシステム協会

A4 サイズ

広報誌の全国店舗への送付時に定期的に同封しており、活用すること。

4 啓発ステッカー

ガイドラインの6-1(1)②に定める依存対策啓発ステッカー(下図)は、日遊協ホームページの「依存対策啓発ステッカー申込み」のバナーから購入申込書をダウンロードできる。

啓発ステッカー

ぱちんこは適度に
楽しむ遊びです。

ぱちんこ依存は、ひとりで悩まずお電話を
相談窓口 ☎050-3541-6420
平日 10:00～16:00

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

サイズ 横 120mm×タテ 62mm

5 来店客への対応

パチンコ店は安全・安心な遊技環境の提供に配慮し、ガイドライン6-1(4)に関して、お客様からの以下

の問い合わせに対する対応例を参考に顧客対応に努めるものとする。

顧客対応は、あくまでも基本的な対応指針等を示したものであり、お客様の個別の相談内容や状況等に応じて柔軟な接遇が求められる。店舗従業員は、精神疾患の専門領域に係る病態等の言及には踏み込まず、依存(のめり込み)問題関連については、ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)等の紹介や自己診断チェック表の推奨にとどめることを原則とする。

(1) 初心者等に対する適度な遊び方の案内

Q: 少ない金額で長く遊びたいが、どんな機種がいいか?

対応例: 遊技機の大当たり確率等を説明したうえで、お客様のポケットマネーの範囲内でお遊びいただくために、状況に応じ、さしつかえない範囲で予算等を伺い、遊パチや1円パチンコ、5円スロット等の低貸玉・メダルの遊技機を薦める。

(2) 遊技客に対する遊技機等の案内

Q: 遊技機の性能、スペック等の質問に対する対応は?

対応例: すべてのお客様は、提供される商品・サービス内容について知る権利があり、提供する側は、説明責任がある。お客様から遊技機に関する質問を受けた際に、正しく説明できるスタッフがいること、もしくはスペック等を確認できるようにガイドブックや台間POP等を備えておくこと。

(3) 自己診断チェック表の案内
(10ページ表参照)

Q: 自己診断チェック表とは?

対応例: いわゆる依存症の評価方法には、いくつかの診断基準がある。RSN告知ポスターに記載の自己診断チェック項目または別紙のお客様へのご案内チラシ(自己診断チェック表)で簡易チェックできることを説明し、必要に応じてリカバリーサポート・ネットワーク(RSN)等を紹介する。

※RSN告知ポスターの診断チェック項目と別紙の診断チェック表の設問内容には違いがあるが、これはアメリカの財団が開発したSOGSというスクリーニングテストと、DSM-5(アメリカ精神医学会の精神障害分類の第5版)の診断基準の違いなどによる。

(4) 相談機関についての案内

(10～11ページ参照)

Q: リカバリーサポート・ネット

ワーク(RSN)とは何をしているところ?

対応例: RSNはパチンコ・パチスロの依存問題からの回復を支援する非営利の相談機関で、電話による無料相談を行っている。問い合わせ内容に応じてRSNの電話番号を記しているRSN告知ポスターまたは別紙のお客様へのご案内チラシを渡し、相談機関があることを説明する。

このほか都道府県と政令市に「精神保健福祉センター」が設置されている。同センターは、精神保健福祉に関する相談機関で、専門の相談スタッフを置いている。

(5) 共通標語に関する案内

Q: 「のめり込みに注意」とは、どんなこと?

対応例: パチンコ店は、お客様にパチンコ・パチスロをポケットマネーの範囲内で予算や時間に応じて適度に遊んでいただくことを薦めている。こうした適度な範囲内を逸脱し、過度にのめり込んだ状態の遊技を繰り返すことで、いわゆる依存症になる場合があることが専門家から指摘されている。手軽な大衆娯楽を提供する立場にある遊技産業

界で、依存(のめり込み)問題を未然に防ごうと努めていることを説明し、理解を促す。

(6) 「子どもの車内放置撲滅キャンペーン」の案内

Q: 子どもの車内放置撲滅キャンペーンとは、どんな取り組み?

対応例: ホール関係5団体は、パチンコ店駐車場での子どもの車内放置撲滅キャンペーンを展開し、駐車場の定期巡回点検や店内放送等による注意喚起を促している。子どもは車内放置は大変危険で、お子様連れのお客様の駐車場への入場を禁止している旨を説明し、理解を促す。「子どもの車内放置撲滅キャンペーン」ホームページ:
<http://www.syanaicho.com/>

6 自己診断チェック表

DSM-5のギャンブル障害の診断基準をパチンコ・パチスロ用に当てはめた自己診断チェック表は以下の通り。遊技客だけでなく、ガイドラインの4-(3)による従業員の自己チェックにも活用できる。診断チェック結果は、あくまでも目安を示すもので、さらに臨床的な判断が重視される。

7 相談機関等

(1) ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)

RSNは、パチンコ・パチスロ遊技に関する依存および依存関連問題解決の支援を行うことを目的に設立された非営利の相談機関。依存問題で悩みを抱える人の無料電話相談を行っている。平成25年に認定特定非営利活動法人を取得。パチンコ・パチスロ産業21世紀会の業界14団体が支援している。年間3000件以上の電話相談が寄せられている。

・RSN相談用電話・

050・3541・6420

相談受付：月～金（土日・祝日除く）10：00～16：00

<http://rsn-sakura.jp/>

(2) 精神保健福祉センター

精神保健福祉センター（県によって「こころの健康センター」の名称もある）は、精神保健福祉法によって設置が定められており、各都道府県と政令市に設置されている。精神科医やソーシャルワーカーなどの専門の相談員を置き、こころの問題や病気で困っている人、家族からの相談を受けている。相談内容に応じ

自己診断チェック表

以下の項目が過去12ヵ月間、ずっと続いていたり、繰り返されたりしていて、そのことが重大な健康上の障害や苦痛を引き起こしている場合に、チェックをつけてください。

- ☐ 1. パチンコやパチスロを、やめたり、遊ぶ回数を減らしたりすると、イライラして落ち着かなくなる。
- ☐ 2. パチンコやパチスロを、やめようとしたり、遊ぶ回数を減らそうとしたりするが、ムダな努力に終わっている。
- ☐ 3. パチンコやパチスロを打っているときのことが繰り返し頭に浮かび、次回どうやって打とうか、どうやって資金をねん出しようかといったことが、頭から離れない。
- ☐ 4. 孤立感、罪悪感、不安、抑うつ感などの苦痛を感じると、パチンコやパチスロに逃げ込むことが頻繁にある。
- ☐ 5. パチンコやパチスロでお金を失うと、負けを取り戻そうとして、別の日にまたパチンコやパチスロに行くことが頻繁にある。
- ☐ 6. パチンコやパチスロにひどくのめり込んでいることを隠すために嘘をつく。
- ☐ 7. パチンコやパチスロにひどくのめり込んでいるせいで重要な人間関係や仕事、教育または職業上の機会を危険にさらしたり、失ったことがある。
- ☐ 8. パチンコやパチスロによって引き起こされたどうしようもない金銭的な危機状況をのがれるために、誰かにお金を出してくれるよう頼む。

（注）設問は、1年以上前のパチンコ・パチスロ行為は該当しない。

※以上の設問8項目のうち、あてはまる項目数が以下のように多いほど重度化している疑いがあると診断される。なお、DSM-5では、診断基準の適用のみによって判断することはできない、としている。特に重要なのが、臨床的に重大な健康上の障害や苦痛が存在するかどうかである。

- 軽度：4項目があてはまる人
- 中度：5～6項目があてはまる人
- 重度：7～8項目があてはまる人

※DSM-5とは、アメリカ精神医学会が作成した「精神障害の診断と統計マニュアル」の第5版。2013年、従来の第4版から改訂された。
※「臨床」＝医療その他の介入を行う現場（を重視する立場）

適切な医療機関や相談機関も紹介している。

・全国の精神保健福祉センターの一覧ホームページ：

<http://www.mhlw.go.jp/kokoro/support/mhcenter.html>

(3) 自助グループ(GA)等

自助グループは、依存問題に悩む本人や家族たちが当事者同士で体験を共有し、いわゆる依存症を克服しようとする相互扶助のグループ。ギャンブル依存の自助グループ。

中には、本人が参加するGA(ギャンブラーズ・アノニマス)、家族が参加するギャンマノンがあり、また、アルコール、薬物、ギャンブル関連など全国に様々な自助グループがある。

図1 共通標語デザイン

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。
のめり込みに注意しましょう。

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。
のめり込みに注意しましょう。

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。
のめり込みに注意しましょう。

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。
のめり込みに注意しましょう。

▶標語デザインはタテ・ヨコそれぞれ4種類・計8種類のほか、全日遊連に「私たちはパチンコ・パチスロホールの全国組織です。」の文言を加えたデザイン等もあり、計24パターンから選択する。ダウンロードは全日遊連のホームページからできる。以下のデザインはヨコパターン。

店舗広告欄

のめり込みに注意しましょう

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。

店舗広告欄

パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。

のめり込みに注意しましょう

▶共通標語の折込広告(チラシ)への挿入例・ヨコパターン4種類。

広告紙面に占める標語スペースは、概ね20%(平成27年4月1日以降は10%~20%の範囲内)とする。標語挿入箇所は、広告紙面の上下・左右など自由。

ギャンブル関連の自助グループは、RSNホームページのリンクからアクセスできる。

このほか認定NPO法人ワンデーパーポートのような回復支援施設もある。

【あとがき】

本ガイドラインおよび運用マニュアルは、業界の依存(のめり込み)問題に対する対応を社会的責任として捉え、従来の取り組みに加えて、

社会や顧客に対する対応等を鋭意検討し、第1版の策定に至りました。当初、日遊協の依存問題PTで検討を開始し、その後、業界6団体で構成する遊技産業活性化委員会のワーキンググループも加わり、検討を

重ねてきました。

依存問題については、精神疾患の専門領域があり、当初、アプローチ方法には論議がありました。が、まずは負の側面にも正面から向き合い、問題認識の共有化を図り、社会と顧客に対する啓発、注意喚起等のための自主的な取り組み指針を策定しました。また、策定にあたりリカバリサポーター・ネットワークの西村直之代表理事、DSM-5の診断基準の翻訳等で篠原菊紀教授(日遊協理事)のご協力をいただきました。今後、本ガイドラインは依存問題関連の知見を集約しながら、随時、改訂していきます。

本ガイドラインにそった業界挙げた取り組みをお願い致します。

平成27年2月

遊技産業活性化委員会 構成団体

全日本遊技事業協同組合連合会
一般社団法人日本遊技関連事業協会
日本遊技機工業組合
日本電動式遊技機工業協同組合
全国遊技機商業協同組合連合会
回胴式遊技機商業協同組合

〈お客様へのご案内〉

業界団体は、お客様にパチンコ・パチスロを「適度に楽しむ遊び」としてポケットマネーの範囲内で遊びいただくことをおすすめしています。

パチンコ・パチスロを「やめたいと思っているが、なかなかやめられない」「もしかして依存かな？」など感じられている方に、ご希望により、次の「自己診断チェック」をおすすめしています。パチンコ・パチスロ依存は、どなたでも起こりえる問題です。一度、チェックしてみませんか？

自己診断チェック表

以下の質問について、過去1年間、続いたり、繰り返されたりしており、そのことが苦痛だったり、身体的、精神的、社会経済的な健康を害することにつながりそうな場合に、チェックをつけましょう。

※当てはまる項目に○を付けてみましょう。

	質 問 項 目
1	パチンコやパチスロを、やめたり、遊ぶ回数を減らしたりすると、イライラして落ち着かなくなる。
2	パチンコやパチスロを、やめようとしたり、遊ぶ回数を減らそうとしたりするが、ムダな努力に終わっている。
3	パチンコやパチスロを打っているときのことが繰り返し頭に浮かび、次回どうやって打とうか、どうやって資金をねん出しようかといったことが、頭から離れない。
4	孤立感、罪悪感、不安、抑うつ感などの苦痛を感じると、パチンコやパチスロに逃げ込むことが頻繁にある。
5	パチンコやパチスロでお金を失うと、負けを取り戻そうとして、別の日にまたパチンコやパチスロに行くことが頻繁にある。
6	パチンコやパチスロにひどくのめり込んでいることを隠すために嘘(うそ)をつく。
7	パチンコやパチスロにひどくのめり込んでいるせいで重要な人間関係や仕事、教育または職業上の機会を危険にさらしたり、失ったことがある。
8	パチンコやパチスロによって引き起こされたどうしようもない金銭的な危機状況をのがれるために、誰かにお金を出してくれるよう頼む。

(注)設問は、1年以上前のパチンコ・パチスロ行為は該当しません。

※以上の設問8項目のうち、4つ以上○印が付いた方は、一度、相談機関に電話してみませんか。相談機関等は、次頁をご参照ください。なお、診断チェック結果は、あくまでも目安を示すものです。

〈相談機関などのご案内〉

(1) ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)

RSNは、パチンコ・パチスロ遊技に関する依存および依存関連問題解決の支援を行うことを目的に設立された非営利の相談機関です。RSNは依存問題で悩みを抱える人の無料電話相談を受け付けており、年間3,000件以上の電話相談が寄せられています。

また、パチンコ・パチスロ産業21世紀会の業界14団体は、RSNを支援しています。

依存問題についてお一人で悩まず、お気軽に電話してみましょう。

・RSN相談用電話 **050-3541-6420**

相談受付: 月～金(土日・祝日除く)10:00～16:00 <http://rsn-sakura.jp/>

(2) 精神保健福祉センター

精神保健福祉センター(県によって「こころの健康センター」の名称もある)は、精神保健福祉法によって設置が定められており、各都道府県と政令市に設置されています。

同センターには、精神科医やソーシャルワーカーなどの専門の相談員を置き、こころの問題や病気で困っている人、家族からの相談を受けています。また、相談内容に応じ適切な医療機関や相談機関も紹介しています。

都道府県や政令市の精神保健福祉センターの所在地・連絡先は、以下のホームページに掲載しています。

・全国の精神保健福祉センターの一覧ホームページ:

<http://www.mhlw.go.jp/kokoro/support/mhcenter.html>

(3) 自助グループ(GA)等

自助グループは、依存問題に悩む本人や家族たちが当事者同士で体験を共有し、いわゆる依存症を克服しようと取り組む相互扶助のグループです。ギャンブル依存の自助グループには、本人が参加するGA(ギャンブラーズ・アノニマス)、家族が参加するギャマノンがあり、また、アルコール、薬物、ギャンブル関連など全国に様々な自助グループがあります。

ギャンブル関連の自助グループは、RSNホームページのリンクからアクセスできます。

このほか認定NPO法人ワンデーポートのような回復支援施設もあります。

※制作: 全日本遊技事業協同組合連合会、一般社団法人日本遊技関連事業協会、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合

全日遊連からお客へ

パチンコ・パチスロは
適度に楽しむ遊びです。



のめり込みに
注意しましょう。

全日本遊技事業協同組合連合会
私たちはパチンコ・パチスロホールの全国組織です。